

第7章
Chapter 7

大会を終えて



神奈川からARIGATO

東京2020大会で多くの感動を与えてくれたアスリートたち。
感謝の気持ちを伝えるため、オンラインイベントを開催。「ARIGATO」の声に包まれた

アスリート感謝会を開催 全国へライブ配信

2021年9月26日、県は横浜市との共催で「神奈川・横浜アスリート感謝会～おうちからARIGATOを届けよう！～」と題したオンラインイベントを開催。その模様を全国へライブ配信した。

当日は、シドニー2000大会サッカー日本代表の中澤佑二氏、ロンドン2012大会、リオ2016大会新体操日本代表の畠山愛理氏の二人をスペシャルゲストに迎え、主催者である黒岩知事、山中横浜市長とともに3部構成で番組を進めた。

第1部のアスリートトークショーで登場したのは、ソフトボール金メダリストの山田恵里選手。藤沢市出身の山田選手は、今大会日本代表チームのキャプテンを務めた。スタジオでは、金メダル獲得の感想や、カナダ戦でのサヨナラタイムリーヒットを放った際の気持ちなどを語っていただいた。また、リクエストにこたえて、その場で素振りを披露。鋭く風を切る音は、周りの人たちを驚かせた。

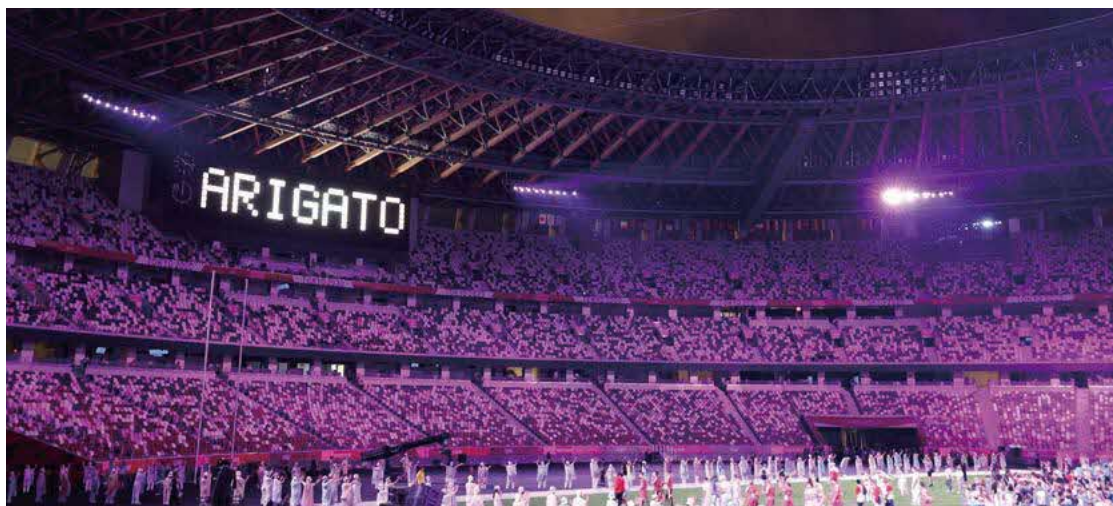
その後、ボランティアのシティキャストフジサワの方々、横浜国立大学教育学部附属鎌倉小学校の児童たちなどからの「アスリートの皆さんの汗と涙に

感動しました」、「カッコ良かった。自分もオリンピックに出て金メダルを獲りたい」といった感謝の気持ちが込められたメッセージ動画を紹介。山田選手はメッセージをくれた方々に向けて「今回のオリンピックは恩返しのオリンピックにしたいという思いを掲げて臨みました。これからもソフトボールを通じて、応援してくださる皆さんの希望や勇気になれるように頑張っていきたいと思います」と語ってくれた。

第2部では、パラ水泳400m自由形と100mバタフライで銀、200m個人メドレーで銅と、初出場ながら3つのメダルを獲得した富田宇宙選手が登場。

「自分らしく生きていきたい」という言葉を原動力に、パラアスリートとして水泳に挑戦する富田選手の言葉には力強さが感じられた。

知事から、「高校生になってから視力を失っていくという状況を、どのように乗り越えてきたのか」という問いかけに対し、富田選手は「目が見えなくなっていき、好きなものもどんどん失っていく中、とても苦しい時期が続いた。どうやって生きていけばいいのかと途方に暮れたときもあった。しかし、そんな中で自分にできることを与えてくれたのは、周りの支えだった。周りの人とつながり、支えてくれ



青木紘二/アフロスポーツ

オリンピックスタジアムで行われたオリンピック閉会式のフィナーレでは、世界中への感謝の気持ちを込めた「ARIGATO」の文字がビジョンに映し出された



①山田選手が鋭い素振りを披露 ②鳥海選手はティルティングという車いすバスケットボールならではの高等技術を披露してくれた ③昔を知る人物の登場にほほ笑む車いすバスケットボールの古澤選手 ④パラ水泳の富田選手は人とのつながりの大切さを語ってくれた

る人に自分は何ができるのか、何を返せるのか、と考え始めたときに初めて動き出せた」と述べ、苦しい状況にある人へも「一人で悩むのではなく、周りの人に相談をしたり、人と協力することで、その壁を越えていってもらいたい」というメッセージを送った。知事は「まさに、これこそが共生社会。胸に突き刺さる言葉です」と感想を語った。

また、トークの途中、今大会富田選手の良きライバルとしてメダルを競い、100mバタフライでワンツーフィニッシュした、木村敬一選手からのメッセージ動画も紹介した。木村選手は、富田選手に対し「これまでたくさん高め合う存在として戦ってきてもらえた。良きライバルとして、楽しいレースを繰り広げることができた」と語った。これを見た富田選手は「木村選手は、追いかけるべき存在であり、尊敬している。彼がめざしていた金メダルにかかわれたことを光栄に思っている」と述べた。

車いすバスケットボール大活躍 日本中の注目を集める

第3部のテーマは「もっと知りたい! 車いすバスケットボールコーナー」。今大会、世界の強豪国を

次々と破り、見事銀メダルを獲得して日本中の注目を集めた車いすバスケットボール。その魅力をさらに知ってもらうために、日本代表として大活躍された鳥海連志選手と古澤拓也選手にお越しいただいた。

大会を振り返り、古澤選手は、「大会に出場した12人だけでなく日本代表強化指定選手に選ばれた24人全員とスタッフが、チームとして一つになっているという気持ちを持って最後まで戦ってきた」と話した。

2回目のパラリンピック出場となった鳥海選手は、「前回リオ大会では9位という譲けない結果となり、それから5年間、メダル獲得をめざして苦しいことも乗り越えてやってきた結果として、銀メダルが獲れたことがうれしい。また、自分たちがやってきたことが間違っていなかったということが証明でき、自信になった」と述べた。

そして、鳥海選手が試合中に頻繁に見せていた「ティルティング」をその場で披露。「ティルティング」とは、シュートやリバウンドの際に、車いすの片側だけ車輪を浮かせるプレーで、ジャンプができない車いすで、相手より少しでも高さを得るために編み出された華麗な技。鳥海選手曰く「体幹が強くないと難しいプレー」とのこと。

その後、六浦毎日サッカースクールに通う子ども

たちからゆかりの選手に向けたメッセージ動画を紹介。「どんな選手も、絶対に勝つんだという気持ちを胸に戦っている姿がすごかった」、「音だけを頼りにボールを追いかけて、目の見えない状況でサッカーをするなんてすごい」といった元気な子どもたちのメッセージが流れた。鳥海選手は、「スポーツは楽しむことが一番大事」と未来のアスリートたちにアドバイスを送った。また、二人が練習をしていた障害者スポーツ文化センターの方々のメッセージ動画も紹介。特に古澤選手は、中学生のころからこの施設を利用し、車いすバスケットに出会うきっかけになったのが、この場所とのこと。動画には、かつて一緒に車いすバスケットをプレーした方も登場。古澤選手について「練習をコツコツやる選手だった。もちろん期待はしていたが、期待以上のことをやってくれた。鳥海選手とともに、パリに向けて頑張っていて、もう一つ上のメダルを獲ってほしい」とコメント。古澤選手は「自分に車いすバスケットの基礎を教えてくれた方なので喜んでもらえてうれしい」と語っていた。そのほか慶應義塾大学やはだの丹沢クライミングパークの方々からもメッセージを頂いた。

アスリートへの 感謝のメッセージが集まる

このイベントでは、SNSに「#神奈川からARIGATO」を付けて、選手への感謝のメッセージや質問を投稿していただいた。

また、投稿いただいた方の中から3人に感謝会に出演された山田選手、富田選手、古澤選手、鳥海選手全員に寄せ書きしていただいたサイン色紙のプレ

● 投稿していただいた主なメッセージ

山田恵里選手、金メダル獲得おめでとうございます。横浜スタジアムで行われた決勝戦をテレビで観戦し、大変感動いたしました。

富田選手といえばやはり100mバタフライの木村選手とのワンツーフイニッシュ！ お二人が抱き合う姿に涙してしまいました。木村選手と一緒に獲ったメダルということが富田選手にとって一番うれしかったのではないのでしょうか。二人の絆を感じられる、ずっと心に残るレースでした。

古澤選手、鳥海選手、銀メダルおめでとうございます！感動と前を向くパワーをいっっぱいもらいました！本当にありがとうございました！

神奈川在住の高校生です～！オリパラをテレビから観戦したのが夏の思い出です。コロナ禍で「青春」と言われる体験がほぼできてない中で貴重な体験でした。改めて選手の皆さん感動をありがとうございました。
横浜からU23見に行きます。鳥海選手のプレー楽しみにしてます◎

コロナ禍で気が弱っていた高齢の母が、車いすバスケットの鳥海選手の魔法のようなチェアワークに魅了され大ファンに。いつか試合を見に行くという目標ができて元気になりました。鳥海選手、ありがとうございました。

次男が3年前からパラスイマーです。当然パラ競泳に注目していましたが、ほかの競技の気迫溢れるプレーにも大変衝撃を受けました。そして自分の中で何かが目覚め、自らも多様性の魅力を発信していこうと決めました。パラリンピアンの方々には感謝でいっぱいです。ありがとう。

ゼントも実施した。

SNSには、心温まる約330件もの投稿が集まり、今大会への関心の高さがうかがえた。

主なメッセージは表のとおり。



シドニー2000大会に出場したサッカー元日本代表の中澤佑二氏と、2大会に出場した新体操元日本代表の畠山愛理氏も登壇した

多くのアスリートからも 感謝の声が届く

コロナ禍での開催のため多くの選手に会場に来ていただけない代わりに、メッセージを動画でお伝えしようと、選手が自撮りできる形での動画提供を依頼。想定を上回る42人もの選手から応援に対する感謝のメッセージを頂くことができた。

東京2020大会は無事終了したが、引き続き、コロナの収束が見えない中、感動を与えてくれたアスリートたちに感謝の気持ちを伝えるイベントも無観客・オンラインでの開催を余儀なくされた。しかしながら、日本中を巻き込んだ大きな盛り上がりと興奮は冷めることなく、感謝会当日のオンライン配信とその後のアーカイブ映像の視聴回数は、約1万2,000回となった。

神奈川県ゆかりの代表選手一覧

地元で生まれ育ったり、学生時代を過ごしたなど、県にゆかりのある152選手をご紹介します

【オリンピック選手】

(敬称略)

選手名	競技・種目	主な成績	ゆかり	選手名	競技・種目	主な成績	ゆかり
五十嵐 千尋	水泳競技 競泳 女子4×100mメドレーリレー、ほか	8位 (メドレーリレー)	横浜市出身	田中 大貴	バスケットボール競技 バスケットボール 男子	予選	東海大学卒
小堀 優加	水泳競技 競泳 女子400m自由形、ほか	予選	相模原市出身	張本 天傑	バスケットボール競技 バスケットボール 男子	予選	青山学院大学卒
佐藤 翔馬	水泳競技 競泳 男子100m平泳ぎ/男子200m平泳ぎ、ほか	準決勝 (200m平泳ぎ)	慶應義塾大学在学	比江島 慎	バスケットボール競技 バスケットボール 男子	予選	青山学院大学卒
塩浦 慎理	水泳競技 競泳 男子4×100mフリーリレー	予選	伊勢原市出身	ペンドラメ 礼生	バスケットボール競技 バスケットボール 男子	予選	東海大学卒
本多 灯	水泳競技 競泳 男子200mバタフライ	銀	横浜市出身・在住	町田 瑠唯	バスケットボール競技 バスケットボール 女子	銀	富士通 レッドウェーブ所属
武良 竜也	水泳競技 競泳 男子4×100mメドレーリレー、ほか	6位 (メドレーリレー)	日本体育大学卒	宮澤 夕貴	バスケットボール競技 バスケットボール 女子	銀	神奈川県出身
坂井 丞	水泳競技 飛込 男子シンクロナイズ/ダイビング3m飛板飛込	5位	相模原市出身・在住	入江 聖奈	ボクシング 女子フェザー級(54-57kg)	金	日本体育大学在学
三上 紗也可	水泳競技 飛込 女子3m飛板飛込	準決勝	横浜市在住	足立 和也	カヌー スラローム 男子カヤック(K-1)	準決勝	相模原市出身
荒井 陸	水泳競技 水球 男子	予選	川崎市出身・在住	畠山 紗英	自転車競技 BMXレーシング 女子	準々決勝	寒川町出身
河口 華子	水泳競技 水球 女子	予選	横浜市在住	中村 妃智	自転車競技 トラック 女子マディソン	13位	日本体育大学卒
工藤 恭子	水泳競技 水球 女子	予選	横浜市在住	東 晟良	フェンシング 女子フルール個人/ 女子フルール団体	6位(団体)	日本体育大学在学
コップ 晴紀イラリオ	水泳競技 水球 男子	予選	日本体育大学卒	東 莉央	フェンシング 女子フルール個人/ 女子フルール団体	6位(団体)	日本体育大学卒
鈴木 透生	水泳競技 水球 男子	予選	横浜市在住	佐藤 希望	フェンシング 女子エペ個人	3回戦	日本体育大学卒
新澤 由貴	水泳競技 水球 女子	予選	横浜市在住	ストリーツ 海飛	フェンシング 男子サーブル個人/ 男子サーブル団体	2回戦(個人)	横浜市出身
橋田 舞子	水泳競技 水球 女子	予選	横浜市在住	徳南 堅太	フェンシング 男子サーブル団体	1回戦	日本体育大学卒
三浦 里佳子	水泳競技 水球 女子	予選	横浜市在住	池田 咲紀子	サッカー 女子	準々決勝	日本体育大学卒
河田 悠希	アーチェリー 男子個人/男子団体	銅(団体)	日本体育大学卒	板倉 凜	サッカー 男子	4位	横浜市出身
中村 美樹	アーチェリー 女子個人/女子団体	準々決勝(団体)	日本体育大学卒	清水 梨紗	サッカー 女子	準々決勝	県立元石川高等学校卒
早川 漣	アーチェリー 女子個人/女子団体	準々決勝(団体)	日本体育大学卒	田中 碧	サッカー 男子	4位	川崎市出身
武藤 弘樹	アーチェリー 男子個人/男子団体、ほか	銅(団体)	慶應義塾大学卒	田中 美南	サッカー 女子	準々決勝	川崎市出身
石川 優	陸上競技 女子4×100mリレー	出場なし	伊勢原市出身・在住	谷 晃生	サッカー 男子	4位	県内プロサッカー チーム所属
木村 文子	陸上競技 女子100mハードル	予選	横浜国立大学卒	旗手 怜央	サッカー 男子	4位	川崎市在住
小池 祐貴	陸上競技 男子100m/男子4×100mリレー	決勝 (4×100mリレー)	慶應義塾大学卒	前田 大然	サッカー 男子	4位	県内プロサッカー チーム所属
デーデー ブルーノ	陸上競技 男子4×100mリレー	出場なし	東海大学在学	三浦 成美	サッカー 女子	準々決勝	川崎市出身
松枝 博輝	陸上競技 男子5000m	予選	南足柄市出身	三苫 薫	サッカー 男子	4位	川崎市出身・在住
山縣 亮太	陸上競技 男子100m/男子4×100mリレー	決勝 (4×100mリレー)	慶應義塾大学卒	宮川 麻都	サッカー 女子	準々決勝	横浜市出身
江島 雅紀	陸上競技 男子棒高跳	予選	横浜市出身	三好 康児	サッカー 男子	4位	川崎市出身
勝木 隼人	陸上競技 男子50km競歩	30位	東海大学卒	亀山 耕平	体操 体操競技 男子種目別あん馬	5位	鎌倉市在住
遠藤 大由	バドミントン 男子ダブルス	準々決勝	日本体育大学卒	北園 文流	体操 体操競技 男子団体/男子個人総合、ほか	銀(団体)	徳洲会体操クラブ 所属
近藤 健介	野球・ソフトボール 野球	金	横浜高等学校卒	村上 茉愛	体操 体操競技 女子団体/女子種目別ゆか、ほか	銅(種目別ゆか)	横浜市在住
山崎 康晃	野球・ソフトボール 野球	金	県内プロ野球チーム 所属	杉本 早裕史	体操 新体操 団体総合	8位	日本体育大学卒
吉田 正尚	野球・ソフトボール 野球	金	青山学院大学卒	鈴木 歩佳	体操 新体操 団体総合	8位	日本体育大学在学
清原 奈侑	野球・ソフトボール ソフトボール	金	横浜市在住	堺 亮介	体操 トランポリン 男子	予選	伊勢原市出身
峰 幸代	野球・ソフトボール ソフトボール	金	横浜市出身	池原 綾香	ハンドボール 女子	予選	日本体育大学卒
山田 恵里	野球・ソフトボール ソフトボール	金	藤沢市出身	笠原 謙哉	ハンドボール 男子	予選	東海大学卒
篠崎 滯	バスケットボール競技 3×3バスケットボール 女子	準々決勝	神奈川県出身	坂井 幹	ハンドボール 男子	予選	神奈川県出身
オコエ 桃仁花	バスケットボール競技 バスケットボール 女子	銀	富士通 レッドウェーブ所属	土井 レミイ杏利	ハンドボール 男子	予選	日本体育大学卒

選手名	競技・種目	主な成績	ゆかり
原 希美	ハンドボール 女子	予選	日本体育大学卒
元木 博紀	ハンドボール 男子	予選	日本体育大学卒
ウルフ アロン	柔道 男子100kg級/混合団体	金(100kg級) 銀(団体)	平塚市在住
高藤 直寿	柔道 男子60kg級	金	東海大学卒
田代 未来	柔道 女子63kg級/混合団体	銀(団体)	相模原市立 相原中学校卒
渡名喜 風南	柔道 女子48kg級	銀	相模原市出身
芳田 司	柔道 女子57kg級/混合団体	銀(団体) 銅(57kg級)	相模原市立 相原中学校卒
荒川 龍太	ボート 男子シングルスカル	11位	横浜市出身
小出 深冬	ラグビー 7人制ラグビー 女子	12位	神奈川県出身
清水 麻有	ラグビー 7人制ラグビー 女子	12位	日本体育大学 大学院在学
白子 未祐	ラグビー 7人制ラグビー 女子	12位	慶應義塾大学卒
堤 ほの花	ラグビー 7人制ラグビー 女子	12位	日本体育大学卒
永田 花菜	ラグビー 7人制ラグビー 女子	12位	日本体育大学在学
原 わか花	ラグビー 7人制ラグビー 女子	12位	慶應義塾大学在学
平野 優芽	ラグビー 7人制ラグビー 女子	12位	日本体育大学在学
松田 凜日	ラグビー 7人制ラグビー 女子	※1	日本体育大学在学
飯東 潮吹	セーリング 混合フォイリングナクラ17級	15位	横浜市出身・在住
岡田 奎樹	セーリング 男子470級	7位	鎌倉市在住
須長 由季	セーリング 女子RS:X級	12位	横須賀市在住
富澤 慎	セーリング 男子RS:X級	16位	横浜市在住
土居 愛実	セーリング 女子レーザーラジアル級	15位	横浜市出身・在住
畑山 絵里	セーリング 混合フォイリングナクラ17級	15位	逗子市在住
外園 潤平	セーリング 男子470級	7位	鎌倉市在住
山崎 アンナ	セーリング 女子49erFX級	18位	神奈川県出身
吉岡 美帆	セーリング 女子470級	7位	藤沢市在住
吉田 愛	セーリング 女子470級	7位	相模原市出身
井川 寛之	射撃 クレー 男子スキート個人	予選	横浜市出身・在住
白井 空良	スケートボード 男子 ストリート	予選	相模原市出身・ 寒川町在住
原田 海	スポーツクライミング 男子 複合	18位	神奈川県中退
都筑 有夢路	サーフィン 女子	銅	藤沢市出身・在住
石川 佳純	卓球 女子シングルス/女子団体	銀(団体)	県内卓球チーム所属
張本 智和	卓球 男子シングルス/男子団体	銅(団体)	日本大学 高等学校在学
鈴木 セルヒオ	テコンドー 男子58kg級	1回戦	川崎市出身
杉田 祐一	テニス 男子シングルス	1回戦	湘南工科大学附属 高等学校卒
石井 美樹	バレーボール競技 ビーチバレーボール 女子	敗者復活戦	藤沢市出身・ 平塚市在住
石島 雄介	バレーボール競技 ビーチバレーボール 男子	予選	以前の活動拠点: 平塚市
白鳥 勝浩	バレーボール競技 ビーチバレーボール 男子	予選	東海大学卒
村上 めぐみ	バレーボール競技 ビーチバレーボール 女子	敗者復活戦	活動拠点:平塚市
小野寺 太志	バレーボール競技 バレーボール 男子	7位	東海大学卒
古賀 紗理那	バレーボール競技 バレーボール 女子	予選	NECレッドロケッツ 所属

選手名	競技・種目	主な成績	ゆかり
小幡 真子	バレーボール競技 バレーボール 女子	予選	日本体育大学卒
島村 春世	バレーボール競技 バレーボール 女子	予選	鎌倉市出身
清水 邦広	バレーボール競技 バレーボール 男子	7位	東海大学卒
高梨 健太	バレーボール競技 バレーボール 男子	7位	日本体育大学卒
高橋 藍	バレーボール競技 バレーボール 男子	7位	日本体育大学在学
初井 あき	バレーボール競技 バレーボール 女子	予選	相模原市出身
山田 二千華	バレーボール競技 バレーボール 女子	予選	NECレッドロケッツ 所属
山本 智大	バレーボール競技 バレーボール 男子	7位	日本体育大学卒
文田 健一郎	レスリング 男子グレコローマンスタイル60kg級	銀	川崎市在住
屋比久 翔平	レスリング 男子グレコローマンスタイル77kg級	銅	横浜市在住

【パラリンピック選手】

選手名	競技・種目	主な成績	ゆかり
辻 沙絵	陸上競技 女子400m T47/女子200m T47	5位(400m)	川崎市在住
禰澤 朋美	陸上競技 女子走幅跳 T63/女子100m T63	4位(走幅跳)	日本体育大学 卒
木村 朱里	ボッチャ ペア BC4	8位	鎌倉市出身・ 藤沢市在住
藤田 征樹	自転車競技 男子ロードレース C1- 2-3/男子タイムトライアル C3、ほか	6位 (ロードレース)	東海大学 大学院卒
稲葉 将	馬術 個人 グレードIII/団体	15位(個人/団体)	横浜市出身・ 在住
佐藤 大介	5人制サッカー	5位	横浜市出身・ 相模原市在住
欠端 瑛子	ゴールボール 女子	銅	横浜市出身・ 在住
三浦 浩	パワーリフティング 男子49kg級	9位	活動拠点: 横浜市
市川 友美	ボート 女子PRIシングルスカル	11位	活動拠点: 相模原市
水田 光夏	射撃 混合R5 10mエアライフル伏射 SH2	32位	森村学園 中等部卒
木下 萌実	水泳 女子100mバタフライ S14	7位	横浜市出身・ 在住
窪田 幸太	水泳 男子100m背泳ぎ S8/ 男子100m自由形 S8、ほか	5位 (100m背泳ぎ)	横浜市在住
芹澤 美希香	水泳 女子100m平泳ぎ SB14/ 女子100m 背泳ぎ S14	7位 (100m平泳ぎ)	横浜市出身・ 在住
富田 宇宙	水泳 男子400m自由形 S11/ 男子100mバタフライ S11、ほか	銀2銅1 (400m自由形、ほか)	日本体育大学 大学院在学
成田 真由美	水泳 女子50m背泳ぎ S5、ほか	6位 (50m背泳ぎ)	川崎市出身・ 在住
日向 楓	水泳 男子50mバタフライ S5/ 男子50m背泳ぎ S5、ほか	7位 (50mバタフライ)	横浜市出身・ 在住
山田 拓朗	水泳 男子200m個人メドレー SM9/ 男子4x100mメドレーリレー、ほか	8位(個人メドレー/ メドレーリレー)	横浜市在住
伊藤 慎紀	卓球 女子シングルス C11	銅	鎌倉市出身・ 在住
加藤 耕也	卓球 男子シングルス C11	予選	横浜市出身・ 在住
田中 光哉	テコンドー 男子K44 61kg級	9位	横浜市在住
米岡 聡	トライアスロン 男子PTVI	銅	清川村出身
香西 宏昭	車いすバスケットボール 男子	銀	茅ヶ崎市 生まれ
鳥海 連志	車いすバスケットボール 男子	銀	神奈川県在住
土田 真由美	車いすバスケットボール 女子	6位	パラ神奈川SC 所属
藤井 郁美	車いすバスケットボール 女子	6位	横浜市出身
古澤 拓也	車いすバスケットボール 男子	銀	神奈川県 出身・在住
藤田 道宣	車いすフェンシング 男子フルール団体、ほか	7位 (フルール団体)	川崎市在住
羽賀 理之	車いすラグビー	銅	活動拠点: 横浜市

※東京2020大会開催時に、県ゆかりの選手としてホームページへの情報掲載の了承を頂いた方を掲載 ※競技の表記順は「東京2020大会ガイドブック」(組織委員会・東京都作成)による

※「主な成績」は、東京2020大会公式記録(組織委員会ホームページ)の2021年8月9日付け(オリンピック)及び東京2020パラリンピック競技大会報告書(パラリンピック)を参照

※複数種目に出場した選手は、獲得メダル又は最高位の種目を記載 ※「ゆかり」の表記については、東京2020大会開催時に、本人から頂いた情報を基に記載

※1 大会直前に負傷離脱したため出場していないが、県ゆかりの選手としてホームページへの情報掲載の了承を頂いていることから、一覧にも掲載